

■北条泰時 武将。鎌倉幕府3代執権。善政を謳われ、幕府政治を確立したが、最期に皇室に干渉して衰退の種撒く。

ほうじょうやすとき
後鳥羽天皇・1183＝ 生。_北条義時の子。

平氏滅亡・・・1185＝ 2歳：

奥州藤原滅亡1189＝ 6歳：

鎌倉幕府始・1192＝ 9歳：

・・・・・・1194＝11歳：元服。源頼朝が烏帽子親となり、名前の一文字を与え頼時と名のらせたが、のち泰時と改名。
東大寺再建完1195＝12歳：鶴岡八幡宮流鏑馬の射手となる。

源頼朝没・・・1199＝16歳：

・・・・・・1201＝18歳：_頼家が蹴鞠に耽るのを諫める。伊豆北条の飢民を救済。
・・・・・・1202＝19歳：三浦義村の娘と結婚。

執権政治始・1203＝20歳：長男時氏誕生。

新古今集・・・1205＝22歳：父義時が執権となる。

・・・・・・1210＝27歳：

方丈記・・・1212＝29歳：次男時実誕生。

北条霸権確立1213＝30歳：*和田義盛の乱では幕府を防衛するなど奮戦し、和田氏を滅ぼした。恩賞地を権現に寄進。

・・・・・・1216＝33歳：従五位下。

・・・・・・1218＝35歳：讃岐守の叙任を辞退。

源実朝暗殺・1219＝36歳：従五位上，駿河守，武蔵守となる。

承久の乱・・・1221＝38歳：_承久の乱には、叔父時房らとともに東海道の大将軍として大軍を率いて攻め上り、杭瀬川(美濃)や宇治川(山城)で後鳥羽上皇方を破り、ついに京都を占領した。さらに時房とともに六波羅探題として都にとどまり、乱後の処理に当たった。六波羅探題は南北に分かれ、泰時は北方、時房は南方であった。

親鸞真宗始・1224＝41歳：_父の執権義時が死去すると、鎌倉に帰って執権となる。得宗家に家令を置き、尾藤景綱をこれに任じ、自家の制度の整備に努めた。継母の伊賀氏は、女婿の参議一条実雅を将軍に立て、泰時の異母弟政村を執権にしようと画策したが、北条政子によって鎮圧された。この年受戒。

北条政子没・1225＝42歳：*当時実質的な将軍の役割を果たしていた伯母政子が没し、これを契機に泰時は大いに政治改革を行う。執権とならんで執権を補佐する連署を置き、六波羅にいた時房をこれに任じた。また評定衆を置き、中原師員、三浦義村ら11名をこれに任じた。連署、評定衆の設置は、幕府政治が独裁から合議に転換したことを意味するものであり、ここに執権政治が確立したといえる。

・・・・・・1228＝45歳：_この前後数年にわたる大飢饉には、倭約を命ずるとともに出挙米の貸付けや年貢免除などによって、領民の救済に努めた。これと並行して、都市鎌倉の整備にもつとめた。

御成敗式目・1232＝49歳：正五位下。*最初の武家法典である「御成敗式目」を制定し、御家人間の相論において公平な裁判を行うための客観的な規範を作った。当時畿内の大寺院は強大な勢力を誇り、朝廷も対策に苦しんでいたが、泰時は僧徒の武装禁止を求め、寺院側の不当な要求に対しては抑圧の態度で臨んだ。

・・・・・・1236＝53歳：_石清水八幡宮と興福寺との紛争では、朝廷に代わって収拾に乗り出し、前例を破って大和に守護を置き、興福寺僧の荘園に地頭を置くなどの強圧策によって、興福寺に収拾案を認めさせた。同じ時期の延暦寺と近江守護佐々木氏との紛争でも毅然たる態度で臨んだ。

・・・・・・1237＝54歳：

鎌倉大仏始・1238＝55歳：将軍藤原頼経に従って上洛したが、このとき京都に籌屋を置き、治安を強化した。しかし貨幣経済の発展によって、困窮した御家人が所領を失う傾向はすでに始まっており、

・・・・・・1240＝57歳：比叡山の僧(高利貸を営んでいた)や借上を地頭代とするのを禁じたり、御家人領の売買・質入れを統制したりしている。

北条泰時没・1242＝59歳：*四条天皇が没し後嗣が問題になると、皇位に干渉し、貴族たちの反対を抑えて土御門上皇の皇子(後嵯峨天皇)を即位させたが、病んで出家(法名観阿)，まもなく没した。